第２弾

津別町森林バイオマス熱電利用構想報告会

3月号にて掲載しました「津別町森林バイオマス熱電利用構想報告会」（平成27年2月9日　林業研修会館集会室で開催）について、今月号では、基調講演をいただいた講師2名の内容について報告します。

基調講演①「再生可能エネルギー導入による地域活性化について」

一般社団法人北海道再生可能エネルギー振興機構　理事長　鈴木　亨　氏

～市民風車の取り組み～

市民風車とは、市民の出資などによる参加で取り組まれている風力発電事業。国内では18基、道内では石狩市や浜頓別町に5基設置されている。市民自らの参加を通して環境エネルギー問題の意識啓発が図られ、地域に存在する未利用な自然エネルギーを地域住民の手で地域のために活かす事業である。

～再エネによる地域活性化の事例～

再エネの導入は、太陽光発電が多く、自治会や市民出資による太陽光発電所の設置が全国的に見られる。売電収入を出資者に地域振興券や地域通貨として還元している。道内の寿都町では、風力売電収入を水道料の軽減対策等に使われている事例がある。

また、バイオマスの付加価値をつけた農産物の販売という事例もある。津別町の姉妹都市、山梨県南アルプス市のトマト農家では、「カーボン・オフセットトマト」を販売する事例がある。津別町ブランドを作る際、ブランディングが重要であり、「１００％自然エネルギーで作った農産物や牛乳」などが出来ると良いのではないか。

岡山県西粟倉村では、村楽エナジー株式会社が作られ、若者が移住してきている。村は「百年の森林事業」を実施。９つのローカルベンチャーを村の外から来た若者（よそ者）が行っている。町が元気になるための２つの要素「よそ者」「ばか者」を取り組みの観点として考えてはどうか。

いしかり市民風力発電所

～津別町の可能性～

津別町における再エネ事業の可能性として①バイオマスの発電と熱利用（木質、家畜糞尿の利用）②小水力発電（農業用水、河川の水を利用）③太陽光発電（公共施設・事業所・住宅の屋根、遊休地の利用）等が考えられる。

津別町民の消費電力量は、ざっくり試算して１０４３万５５００ｋｗｈを消費している計算になる。同じ電気の量を木質バイオマス発電でつくるとしたら約１４９０ｋｗの設備が必要となる。

津別町には豊かな地域資源があるので、これらを活かして「経済的にもヒト的にも活性化された町」を皆さんで作ってもらいたい。

基調講演②「津別町森林バイオマス・エネルギーの農業利用の可能性と課題」

株式会社アジア地域連携研究所
代表取締役研究所長
飯澤　理一郎　氏

～農業利用の可能性～

熱電を農業的に利用するには、施設園芸に限られてくる。北海道では爆発的に拡大しているわけでなく、道内に点々と存在している状況である。

道内の先進地では減反政策を契機に溶液栽培で施設園芸を始めているところがあるが、どこも冬場の暖房が課題である。しかし、津別町ではその心配がないのが利点である。

津別町での施設園芸を考えると、７２０㎡３棟の規模を想定されているので大規模ではない。栽培品目を考えたときに、ある程度いろいろなものを栽培したほうが良いと思う。作ったものをどこに売るかが問題となる。しかし、想定されている規模での市場販売では量が足りない。販売先を町外ではなく、まずは町内に目を向けることを進める。余力があれば町外を検討すべきである。

エネルギーやバイオマスは地産地消であり、施設園芸で栽培したものも出来る限り地産地消すべきである。

町内の需要先を考えると、熱の供給先である、認定こども園や老人ホームの給食の食材に使っていくことが一つである。町外の販売を考えるのであれば、北見市場もひとつである。

栽培品目の代表的な例に、いちごの栽培があげられるが、夏秋（かしゅう）イチゴは、今でも品薄状態であることから、飛ぶ様に売れるのではないかと考えられる。

施設園芸に対するスーパー等の受け止め方は、衛生的できれい、安全性が高いなど良い評価である。

～農業利用の課題～

施設園芸で注意する点は、一つ目に、労働力の調達がある。施設園芸は細かい仕事であり、作業が集中することから従業員の確保が重要となる。夏場は出荷が多く、冬場は出荷が減少するため雇用確保が難しい。

二つ目に、熱供給がストップする土日等休日の暖房対策を検討する必要がある。ただし、津別町は日照率が高いことから冬場の日中のハウス加温は少なくてすむ可能性があるので試験してほしい。また、夏場の余った熱については、クーラーとして利用することを検討する必要もある。これが使えることにより成長を操作することが出来、多様性に富んだ展開ができる。

三つ目に、施設園芸には北海道型がない。津別町型をどう作っていくかが大事な課題である。

少しずつ時間をかけて一歩ずつ展開していければ、おもしろい展開が見えてくるのではないか。

津別町は、有機酪農が日本初の先進的な取組みであり、是非、森林バイオマスと有機酪農のセットで取り組んでもらいたい。

農業用ハウスによる施設園芸（イメージ）

講演を熱心に聴く参加者

おわりに

２回にわたり本報告会の内容を掲載しました。今後、再生可能エネルギーを通して、町民が安心して暮らせる「エコタウンつべつ」を目指し、基幹産業である農林業の活性化と新たな雇用創出などの地域振興につなげて行きたいと思います。

問い合わせ先　産業振興課　再生可能エネルギー推進グループ　☎76－2151（内線262）